

本能寺後 光秀何を思う
 美濃加茂市民ミュージアムが所蔵する明智光秀の書状。本能寺の変の後に書かれ、軸装されていた。同ミュージアム提供(記事は26面)

⑭ 明智光秀書状 「天正一〇年

尚以急度御入洛義、
 御馳走肝要候、委細
 為 上意可被仰出候条
 不能巨細候、

如仰未申通候処ニ
 上意馳走被申付而
 示給快然候、然而
 御入洛事、即御請申上候、
 被得其意御馳走肝要候事、

其国儀可有御入魂旨
 珍重候、弥被得其意可申
 談候事、

高野根来其元之衆
 被相談至泉河表御
 出勢尤候、知行等儀手寄
 以国申談、後々迄互入魂
 難通様可相談事、

江州濃州悉平均申付
 任覚悟候、御氣遣有
 間敷候、尚使者可申候、
 恐々謹言、

六月十二日 光秀 (花押)

雑賀五郷
 土橋平尉殿
 御返報

(包紙上書)
 「惟任日向守 光秀
 雑賀五郷
 土橋平尉殿 御返報」